

第40回群馬県青少年健全育成審議会 結果概要

日 時 令和8年7月2日（木）午後2時～

会 場 県庁29階 第一特別会議室

出席者 委 員：佐光委員ほか12名

幹 事：児童福祉課長ほか4名

事務局：生活こども部長ほか7名

議題（１） 会長及び副会長の選任ならびに部会委員の選任について

（選出結果）

会 長：佐光委員

副 会 長：下田委員

第1部会：佐光会長、石川委員、鈴木委員、唐澤委員、湯浅委員

（部会長：佐光会長）

第2部会：下田副会長、神野委員、佐野委員、丸山委員、竹内委員

（部会長：下田副会長）

議題（２） 群馬県子ども・若者総合相談センターの設置について

（意見概要）

- ・ 委 員：群馬県子ども・若者総合相談センター（以下、センター）がこういったところに設置されるのか。相談の多様性があるため、大手企業などが受託することが想定されるが、近くに相談できる場所がないと、保護者は「遠いからやめておこうか」となったりする。センターが身近に感じられる相談先であって欲しい。
- ・ 委 員：相談先が沢山あり、悩みが多いと、どこに相談するべきかが分からないため、相談の入口としてあるといいなと思っている。
- ・ 委 員：14年前に札幌の子ども・若者総合相談センターを見学したが、相談窓口という感じではなく、こどもが遊びに行くようなイメージだった。ずっと群馬県でもセンターを開いてほしかった。
子ども・若者本人だけでなく、「家族支援」という面にも是非着目していただきたい。
- ・ 委 員：総合相談センターについては、設置実現が近づいてきてうれしく思っ

ている。支援機関同士が繋がれる場があるということもありがたい。一方で、子ども・若者が実際に直接行くケースはどのくらいあるのか。本人の状況から、ご家族から繋がってくるケースも想定される。センターが支援機関の束ね役として、連携先としてランチをいくつも持ちあわせて、支援が幅広くなっていけばいいと感じている。

- ・ 委員：富岡市には「ぷらすゆう」という、「何でも相談に乗ります」という機関がある。部屋も用意してある。相談の手段は電話とかパソコン、LINEが多い。子どもだけでなく親が相談してくる場合もあるし、当事者たちは大変という状況を理解してほしい。支援が必要な人を見つけ出す、きっかけを作ってくれる人がいてくれるといいなと思う。センターについては、「既存の支援機関と連携を取る組織なんだよ」ということを周知していただきたい。

- ・ 委員：安中市では、民生委員になかなか相談が上がってこないが、困っている人は多いと思う。民生・児童委員を知らない親も多い。

3歳くらいまでの未就学児を訪問している。行政などからのお知らせをファイルに入れて「お困りのことがあったら」とお伝えしているが、本当に困っている家族が、相談窓口を知る方法が分からない。コロナ後は私たちも学校に行く機会が減り、なおさら周知方法が難しいところ。

子どもだけで相談にいくケースはやはり少ない。どのように皆さんにお伝えするか、実際にセンターが始まったら、積極的に保護者にお伝えしていきたい。

- ・ 委員：すごく多彩で複雑で重い話。センターのような、具体的な相談方法があるのはありがたい。

しかし、せっかく繋がったが、「意味がない」と相談者が感じてしまうと、そこからが更に支援が難しくなってしまう。相談に乗る側が、指針もなしに対面等してほしくはない。1対1できちんに対応してほしい。

相談には、そういったことに対応できる相当な人材が必要だと思う。市町村でも作っていてもよいと思う。LINEなど様々なアクセスはあるが、頼れる大人もいるんだ、と感じてもらえる場所であってほしい。

- ・ 委員：相談センターの機能について、支援のコーディネートや家族支援のほか、「アウトリーチ」の機能が求められるのではないかと。
- ・ 委員：相談したい方はいっぱいいるはず。しかし、更生保護女性会では、電話が実際にかかってくることはほとんどなかった。というのも、相談する側にも勇気が必要となる。支援する側の人格がとても重要。A Iに相談する人も増えている。そこも踏まえた上で、やっぱり「人」。どうやって支援していくかが求められる。
- ・ 委員：その子がどう思っているのかが大事だと思う。本音を言えない子どもはたくさんいる。親子関係が悪いから非行に走る、というわけでもないケースも結構ある。親とは切り離して、子どもの意見を聞くことも求められていると感じる。
- ・ 委員：奨学金の審査の中で家計調査をしていて、経済的に困窮している家庭の状況をたくさん目の当たりにした。大学に入る前などで判明するのではなく、もっと小学生や中学生の段階で気付くことができないか。困窮しているこどもの状況を調査する方法が出てきてほしい。また、そういった情報がセンターに上がってきてほしい。

議題（３）ぐんまこどもビジョン２０２５の進捗評価について

（意見概要）

基本方針３（２）こども食堂がある市町村数

- 委員：こども食堂がある市町村が２２市町村で「進捗Ｂ」とのことだが、今、給食がないとお昼が食べられない子がいるとか、経済的に厳しい家庭が依然として多いと報道されている中で、世間の認識と離れているのではないかと。自助では限界があり、共助・公助の部分をもっと増やしていく必要がある。
- 県からも、こども食堂に一層支援をしていく必要があるのではないかと。胸を張って「子どもを育てるなら群馬県」と言えるような、踏み込んだ政策が必要なのではないかと。
- 現在の大学生の半分近くは、何らかの奨学金を使っている現状もある。もっと公的な支援が必要なのではないかと。
- 委員：太田市のフードバンクは、昔ほど食べ物が集まらない。常時「空」の状況である。

基本方針３（４）高等学校等における消費者教育の外部講師等の活用回数

委員：消費者教育の外部講師の活用回数が減っているというが、学校で適切な教育ができているのだろうか。

基本方針３（５）不登校または不登校が心配される児童・生徒や保護者、関わる教職員等へのスクールカウンセラーの関わりの割合

委員：スクールカウンセラー、心理師の先生が子どもたちに寄り添っていただいているが、本当に今、子どもたちの悩みは多様化している。もはや学校が先生だけで運営できない時代になっている。スクールソーシャルワーカーの配置拡大のほか、スクールナースの設置など、積極的に子どもたちにお金をかけていただきたい。

委員：配置率も重要だが、ソーシャルワーカーの配置の複数化や、相談回数を増やしていく方法も検討いただきたい。

基本方針４（２）県内出身大学生等のＵターン就職率

委員：Ｕターンの就職率について、勤めたい企業が無いことが問題だと思う。息子もそれで戻ってこない。そこを取り組まない限り、数値は上がらない。なにか突破する展望があるのか。就職活動の早期化・長期化といった以前の、根本的な問題なのではないか。

委員：学生はそこまでキャリア教育を受けていない。なるべく早く地元の企業に関心を持っていただきたいという点もある。まだまだ群馬県の上場企業も求人が残っていたりする。大学が企業について情報を提供できるようにすべき。就職率を上げることに執着するのではなく、地域の企業を学んでいただく。学生の親もそこについて学ぶ必要がある。

委員：Ｕターンの就職率の問題は、本県の要因のみでは無いからこそ難しい状況があることと思う。群馬県が進めている「デジタルクリエイティブ人材」を育てて、東京圏に持っていかれることは避けたいところでもある。複数の関係課と連携して、企業誘致などを進めていただきたい。